

「香港中文大学派遣参加報告書」

京都大学農学部・研究科3年 中本 博

私は今回香港中文大学へ行って、多くのことを現地を感じたのでそれらについて記していこうと思います。

このプログラムの参加以前には、私は自大学の専攻が世界の中でもトップクラスにあるのなら留学の必要性はあまりないと考えていました。しかし現地の学生から聞いたことなのですが、彼らの多くは香港中文大学に在籍しているながらも韓国や日本の大学への留学の経験がありました。交流した学生たちは歴史を専攻としていてその専攻を深めるための留学と言ってしまえばそれまでなのですが、それ以上に彼らは留学先の機関での研究方法を中文大学のものとは別にして習得していました。例えば、現地調査と事前準備の順序などは特定の国では定まっているかもしれませんが、別の文化を持つコミュニティへ行けば適宜変更します。その様子をケースバイケースによって使い分ける練習をしていました。こういったその国の習慣・考え方に基づく方法を取り込むことで研究が行き詰った際に一助となるのが私の気づきとなりました。そして留学に対して研究が進んだ分野に進むのも一つの手ではありますが、自国とは異なった視点で物事をとらえている機関へ行くという選択肢が増えました。

次に香港で経験したことについて述べます。今回私たちはデモの真ただ中という一見すれば危険な時期に渡航しました。現に到着した翌日には空港が封鎖されたり、地下鉄がその機能を失ったりしていました。しかし私たちは誰一人として危険な目にあうことはありませんでした。これは現地の大学から届くメールや地下鉄内のテレビなどを参考にして危険地域を皆で共有して回避したことの結果だと思えます。この経験を受けてもちろん危険な時期に渡航するのはなるべく避けたほうが良いのですが、日本よりも危険と言われる海外を一辺倒に危険であると思いつめるのではなく、危険地域や危険な時間帯に注意すれば比較的安全に過ごせるということをもっと知りました。また大事なことなのですが自国から届く危険情報メールも重要なのですが、やはり現地で得られる情報に比べて時差があるので、在籍している地域での適切な情報処理が海外生活において必須であると感じました。

次に現地での特別講義について記します。中文大学で京都大学の卒業生が中国の歴史について講義してくださいました。講義内容は特にアメリカとの関係に注目して、今までの歴史的戦争を振り返り平和の大切さを様々な観点から説いてくださいました。また今回の香港のデモ騒動を講義の中に取り込んでくださり、香港はちょうどいま転換期にありその歴史的なターニングポイントに私たちが立ち会えたことをよく覚えておくようにと教わりました。私は市民総出で自らの意見を述べる香港の状況に、時事問題への深い関心と自らの意見を主張する大切さに気付きました。なぜなら今はアメリカのトランプ大統領就任やイギリスのEU脱退など世界的に予測のできない時代に突入しているからです。香港市民が中国からの自由を求めているその姿に、日本の投票率の低さを比較して彼らのようにもっと自分の意見を主張するべきなのではないかと改めて思いました。

これらの経験を受けて私は海外をもっと知る必要があると考えました。世界の進む先を知ることにより世界の必要とされているものが変わるため、理系だから文系だからというのは関係なく世界を知る必要があると感じました。また世界のそういった状況について意見交換をする際にはもちろん自国のことについて深い理解をしなければなりません。そういった世界情勢について考えるきっかけを今回のプログラムは与えてくれました。